

## 11<sup>th</sup> International Phycological Congress に参加して 福岡 将之

第11回国際藻類学会議（11th International Phycological Congress）は、2017年8月13日～19日に、ポーランド共和国西ポモージェ県シュチェチンのシュチェチン大学 University of Szczecin を会場として開催されました。今大会では、4つのプレナリーレクチャーが開かれ、それぞれ220を超えるオーラルセッションとポスターセッションが行われました。これらの講演は、14のシンポジウムと25のセッションに分野ごとにまとめられていました。参加国数は日本を含め40か国以上となりました。

私は、国際学会への参加のみならず、海外に行くこと自体が人生で初めてであり、学会の緊張だけでなく、まず学会会場までの道のりへの緊張も感じていました。自分の発表の準備と平行して、海外渡航の準備も進めていきました。しかし、初めてのことなので、まずパスポートを取ること、コンセントは日本のものでは使えないので変圧器や変換器を買わなくてはいけないこと、下手をすると莫大な携帯電話の通信料を請求されてしまうこと等今まで想像すらしていなかった、日本と違う環境で生活する上での準備に、出発の数日前は慌てふためいて大変な思いをしました。

学会参加前に、早めに日本を出発し、日本歯科大学の南雲保先生と松岡孝典先生と、イギリスのロンドン自然史博物館のタイプ標本の探索にご同行させていただき、初めての入国



コーヒーブレイクの様子

はイギリスのヒースロー空港となりました。そこでの数日間の滞在を経て、ポーランドに入国した直後に、今度は英語の表記がほとんど見当たらないことに驚きました。ポーランドなので、ポーランド語で書いてあるのは当然なのですが、英語すらも危うい自分にとってはまたしても衝撃でした。

学会会場に迷いながらもなんとか到着し、私の研究テーマである、海産付着藍藻類の *Placoma* 属の形態と分類についてのポスターも貼り終え、まずは一安心というところでした。エクスカーションでは、バルト海沿岸の観光地をバスで周遊するというものに参加させていただき、初めてみるヨーロッパの街並みやバルト海の風景に感動しました。

発表内容で特に興味深かったのは、同じ藍藻類を研究テーマにしているチェコ共和国南ボヘミア大学の Berrendero Gómez 博士と Johansen 博士のヒゲモ科 Rivulariaceae の再評価と新属 *Nunduva* の報告に関する発表でした。発表は英語なので、理解するので精一杯でしたが、特に Johansen 博士の発表内容は私と同じ海産の藍藻類だったので、良い知見を得られたと同時に親近感を感じることもできました。その後、私のポスターセッションでも Johansen 博士はいらしてくださり、拙い発表をととても真剣に聞いていただき、「あまり研究されていない分類群だから頑張してほしい」との激励のお言葉も頂戴しました。また、論文の別刷り等も頂いて、非常に実りのある出会いとなりました。

今回の国際藻類学会議への参加は、世界最先端の藻類研究の内容に触れるとともに、初めての海外渡航経験ともなり、私にとって非常に有意義な体験となりました。また、発表に対する様々なコメントは、今後の研究活動への大きなモチベーションとなりました。それと同時に、海外の方々との交流をさらに円滑にするための英語力の強化が最重要課題であるとも実感しました。

第12回国際藻類学会議は、チリのプエルトバラス Puerto Varas で開催予定とのこと。今回の経験を糧に、次回の大会も参加できるように邁進していきたいと思います。最後に、今回の学会参加で、渡航の準備から現地での生活に至るまで多大なるご支援を頂いた日本歯科大学の南雲保先生と松岡孝典先生に御礼を申し上げます。ありがとうございました。

（東京海洋大学大学院）



エクスカーションで訪れたカミエン・ポモルスキの石器博物館